

中長期の経済財政に関する試算 (2024年1月) のポイント

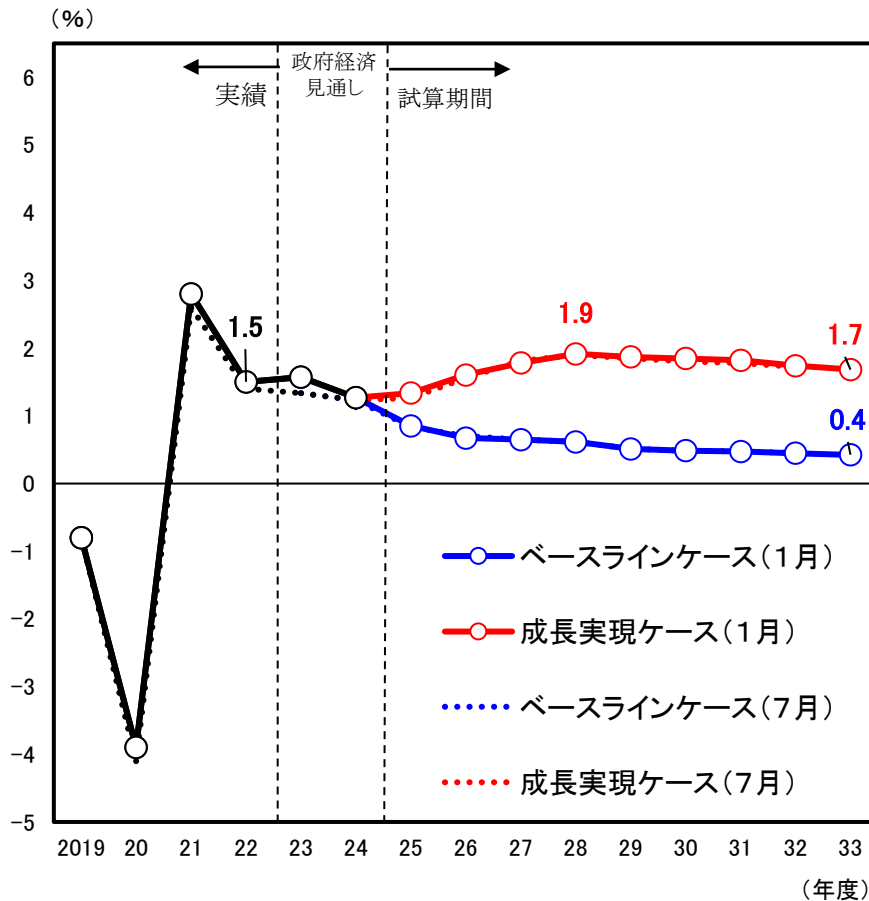
2024年1月22日

内閣府

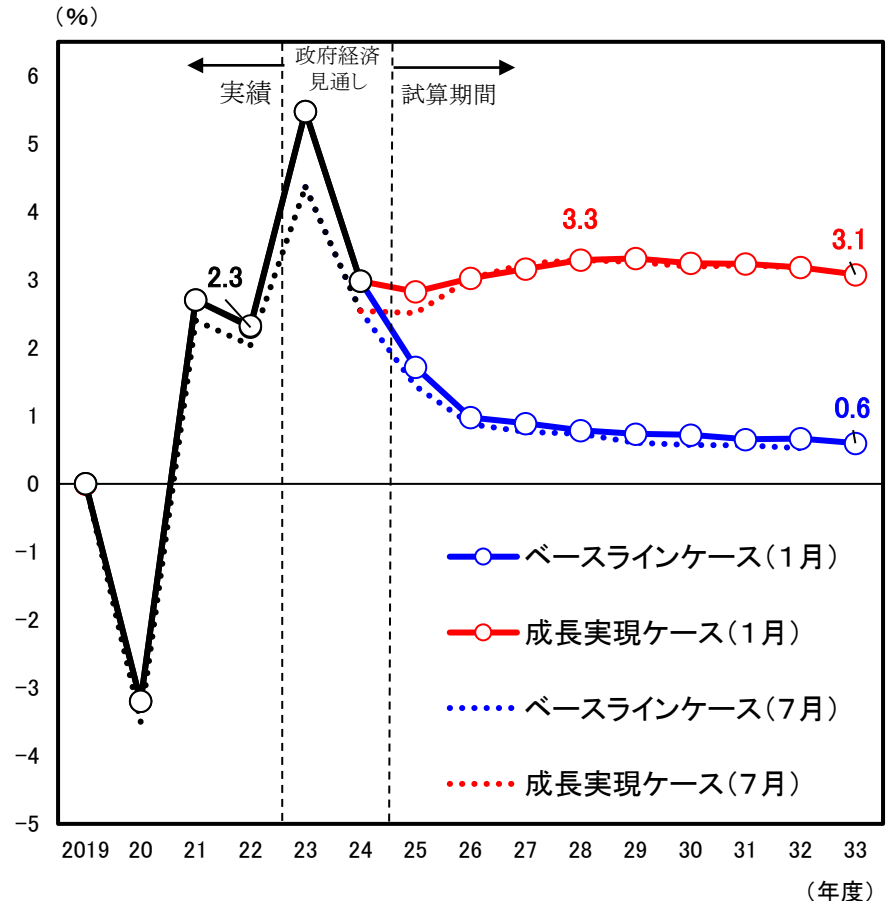
経済の中長期的な展望

- ベースラインケース: 全要素生産性(TFP)上昇率が直近の景気循環の平均並み(0.5%程度)で将来にわたって推移するシナリオ。中長期的に実質・名目0%台半ばの成長。
- 成長実現ケース: TFP上昇率が、デフレ状況に入る前の期間の平均1.4%程度まで高まるシナリオ。中長期的に実質2%程度、名目3%程度の成長。

実質GDP成長率



名目GDP成長率



財政の中長期的な展望

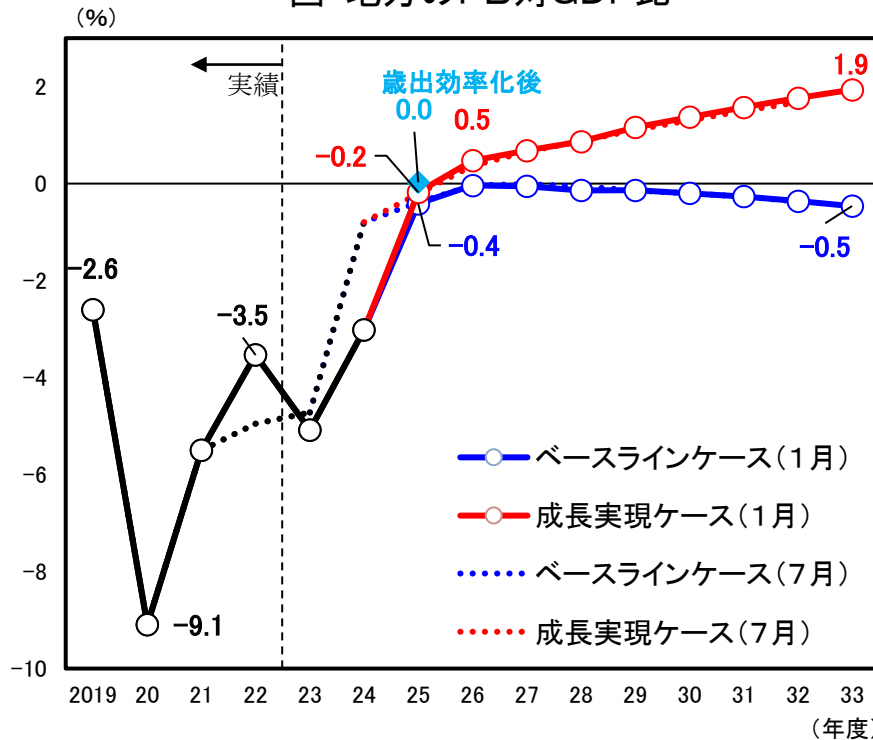
【国・地方のPB対GDP比】

- 累次の経済対策によって歳出が増加したが、民需が拡大するなか、2024年度までに対策にかかる歳出の大宗が執行されることから、2025年度に改善。
- いずれのケースにおいても、2025年度に赤字が残るが、成長実現ケースでは、歳出効率化努力を継続した場合、2025年度のPB黒字化が視野に入る。

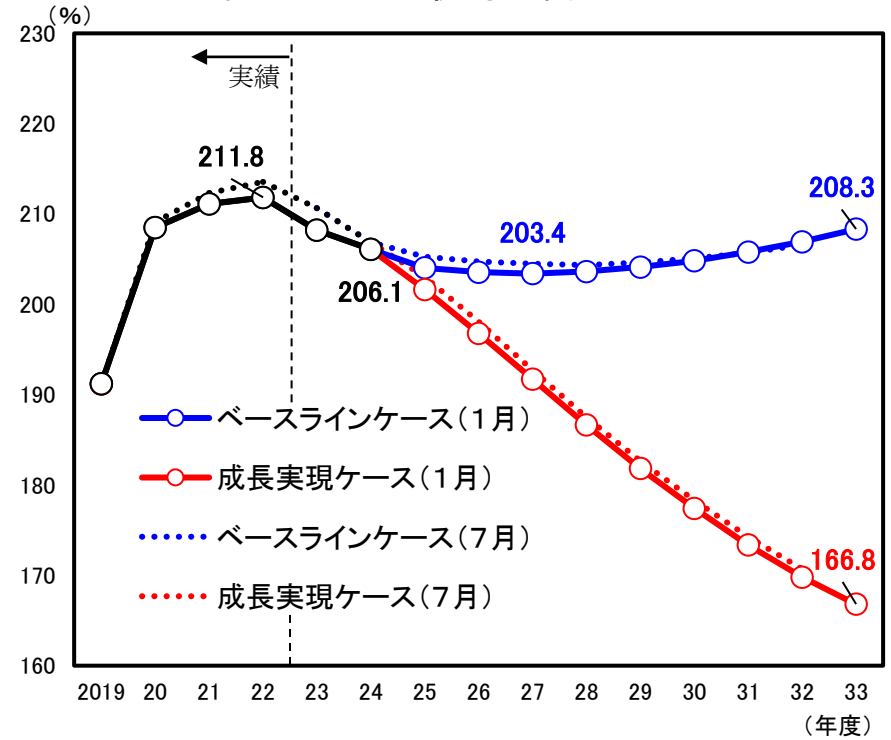
【公債等残高対GDP比】

- ベースラインケースでは2020年代後半に上昇に転じる。成長実現ケースではPBが黒字化する中で徐々に低下する。

国・地方のPB対GDP比



国・地方の公債等残高対GDP比



(備考)「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」(~2025年度)及び「防衛力整備計画」、「こども未来戦略」は試算に反映している。